



保育園での異文化体験エピソード

その10 靴の文化



イラスト・うつろあきこ

オーストラリアから来た5歳のロン君は、園庭に出るときや散歩に出かけるとき、仲間からいつも出遅れていました。原因は、玄関で靴を履くとき、いつも座り込んで靴を履くからなのです。その理由は、靴紐にありました。靴を脱ぐとき必ず靴紐を解いていたので、次に履くときは紐を結ばなければならず、これに時間がかかっていたのです。日本の子どもは、マジックテープ方式かそのまま足を入れてしまう形が一般的なので、靴を着脱することに頓着する必要がありません。

そんなある日、ロン君を迎えに来たお父さんが玄関の上がり口にへたり込んでいました。どうしたのかなと覗き込むと、お父さんも靴紐を解いて靴を脱ぎ、履くときは靴紐を丁寧に結んでいました。靴べらを使って簡単に足を押し込む日本人の方法とは違います。ロン君の出遅れの原因は、「靴の文化」の違いなのだ納得し、その後、靴の着脱の機会がとても多い園生活の事情を彼の両親に説明して、靴紐のない靴に変えてもらいました。

靴を当たり前のように履いている私たちですが、家の内と外の区別をする文化を継承していることで、もともとの「靴の文化」とは矛盾しているところもあるのだということを学んだエピソードです。

(藤井 修/京都市・たかつかさ保育園園長)

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp